

テーマ確定のための検討事項・論点

第5回円卓会議に向けたレポート【北村委員長】

論点1、2、4について

「アートコンシエルジュ」の定義や機能について考えよといわれ、正直に申し上げると、あまり明確なイメージを持ち得ていない。

また論点2に掲げられている南先生のイメージ図について、第1回円卓会議の報告の際の三者関係から、六者関係に細分化され、それをネットワーク化する中心にアートコンシエルジュが存在する、ということが理解できないわけではないが、それが可視化されると、六者が何かしら実体的なもののように見え、固定化されてしまうことの危惧を覚える。あくまでこれらはそのような機能を果たす「項」なのだということを念頭に置くべきである。

論点4については、コンシエルジュが、将来設置されるはずのアートセンターの業務や、私たちがこれまでに提案したさまざまなアイデアを実現する中心的存在となることが予想されるが、その職能と関わって、どこまでのことを遂行できるのか、またそのような人材をどのように育成し確保するのかについて具体的方策はまだ考えが及ばない。

論点3について

これまでの議論の経緯を振り返りたい。

まずは、第1回円卓会議の提言は、「アーティスト-市民（企業等を含む）-市役所」の三者構造を「芸術の産業化」よってそれら相互の関係性を構築する、という内容だった。それに対して、三者の機能を固定化してしまう危惧はないか、「産業化」という概念が芸術にふさわしいか、といった意見が出された。しかし芸術が一部の好事家だけのものではない、逆にいけば、私たちは日常的に誰でも芸術に接していることに気づいていないだけで、「産業化」とは芸術なしには生活そのものが成り立たないことを、裏返して言及しているのだと考えられる。

第2回円卓会議は、そのような芸術の産業化＝日常化を推進し、札幌における将来の芸術の拠点になるであろう「アーツセンター」について、その理念と果たすべき機能を集中的に論じるものであった。現在、札幌市ではその具体的な実施形態や組織のあり方について検討を進め、市民交流複合施設が完成する平成30年をめどに稼働させるようであるが、これだけ具体的な提言がされているのであれば、ハードの整備を待たずとも、ソフト的にできることからアートセンターを運用してはどうか、という意見が多く出された。

以上これまでに2回の円卓会議を受け、また近年の札幌市における芸術文化の動向、とりわけユネスコ創造都市ネットワークへの加盟と札幌国際芸術祭2014の開催を踏まえて、第3回円卓会議において取り上げるべき論点を網羅的に洗い出す作業を行った。それは具体的なものから抽象的なものまで、実にさまざまなアイデアの宝庫であり、そのすべてを実現することはできないかもしれないが、機会あるごとにその実現可能性を探ってもらいたいと思っている。

※ 記載欄が不足する場合は、適宜記載欄を調整していただいて構いません。

テーマ確定のための検討事項・論点

それらを集約する形で提示されたのが「札幌アートの面白さ第一主義」と「アートコンシエルジュ」という概念であった。今回はこの「コンシエルジュ」を中心に意見を述べるのが課題となっているが、これまでの議論の進め方が具体から抽象へという帰納法的な論法であったため、「コンシエルジュ」に議論を収斂させるとしても、いささか理念的な論点が欠如しているように思われる。何のための「コンシエルジュ」かと、問われたとき、「市民に必要な芸術文化の情報を適切かつ確実に届けるため」、「芸術の日常化に向けて、芸術ネットワークの中心の存在として」、「アートセンターの主要な機能であるから」とは一応答えられるが、では「アートセンター全体の中での位置づけは?」、「芸術ネットワークをどのようにして構築するのか?」、「果たして必要な芸術文化に関する情報が必要な人に、必要な時にコンシエルジュが届けられるのか?」等々、具体的な課題が続々と上がってきってしまう。

その無限遡行を止めるためには、いったん個々の具体的な方法論から離れて、私たちの今回の円卓会議の理念のようなものを見定めておく必要がある。それは私たちの議論の核になるもので、その上で改めて委員各自から提示された個別の課題を系統化する作業、すなわちこれまでの帰納法的なベクトルとは逆の演繹論的ベクトルをとるならば、議論全体が整合性のとれたものとなる。

では、改めて今何が問われているのかを考えるなら、市民生活にどのように芸術を浸透させるのか、ということなのだろうと思う。これは最初に出てきた「芸術の産業化」とは逆の「産業の芸術化」とでもいうべき立場であるが、経済活動のみならず教育活動や社会活動、文化的活動、また家庭や地域社会、職場などでの生活、さらに地球規模での社会変動や環境問題など、私たちの日常性のあらゆる場面に芸術が関係している、いや積極的に関与してゆく、ということである。

もちろんこうした芸術への関心は今に始まったことではない。札幌市ではすでに半世紀も前に札幌市民憲章を制定し、その中で、「世界とむすぶ高い文化のまちにしましょう。北国のくらしにあった、衣・食・住のくふうをしよう。生活の中に、音楽や美術などを生かしていこう。文化財を大切にし、みんなの文化を高めよう。世界の人と手をにぎり、学術、文化の発展につとめよう。」と謳っている。まさに温故知新とすべきであるが、ただ近年の芸術文化の動向との齟齬にも注意しておく必要がある。すなわちかつて自明であった「音楽や美術」はもちろん現在でも重要ではあるが、それ以外の現代の芸術文化は、その多様化と流動化が著しく、芸術文化は美術館やコンサートホールにモノとして存在するのみならず、広く社会の中で起こるコト的な側面を強くしてきたのである。だが、こうした状況は、上に述べた芸術の日常性への浸透という事態にとってむしろ優位に作用するだろう。

さらに近年の大きな変化は、「創造都市さっぽろ宣言」(2006)とユネスコの創造都市ネットワークへの加盟、さらに札幌国際芸術祭 2014 の開催であり、また近い将来に実現するはずの市民交流複合施設とアートセンターの設置である。このような動向を無視して今回の円卓会議の議論を進めることは私たちのミッションを放棄することにも等しいが、決して私たちの問題意識が向いている方向と矛盾してはいないように思われる。

テーマ確定のための検討事項・論点

以上を勘案すれば、第3回の円卓会議の理念は「創造都市さっぽろの実質化」なのではないかと考える。それは私たちの生活の中に芸術を浸透させることを通じて、経済活動や文化活動を活性化させ、日常性を豊かにし、現在私たちの抱えている諸問題へアプローチすることである。

ただ問題は、「芸術（アート）」といい「創造性（クリエイティビティ・アイデア）」といい、それを自らのものとして実感することの困難さをいかに克服するか、ということである。私は毎年、大学で美学や芸術論の講義で、芸術は私たちの身近に存在する、人には誰にでも創造性が備わっている、ということを繰り返し語っていて、すべての学生がそのことに気づくわけではないが、ある程度の成果は上がっていると思っている。そのような講義なりセミナーをできれば札幌市民全員にしたいところであるが、しかし啓発することはなかなか難しいだろう。そこで、そのための組織として「アートセンター」が存在し、その機能の一つとして「アートコンシエルジュ」があるのだ、と考えることによって、少なくとも私の中ではこれまでの議論の整合性がとれる。ただし、「コンシエルジュ」という言葉も、「アート」や「クリエイティビティ」に劣らず、特定の世代以外にはとりつきにくく、また一般的用語として今後定着するかどうかは不明であり、再考すべきではある。またそのような職能を備えた人材をどのように育成し、ネットワークを構築し、機能させるのか、という方法論については依然として決定的なものはない。

あるいは「面白さ第一主義」（もちろん、単に娯乐的であるというのではなく、何かしらの発見や驚き、喜び、美的快があるということ）として札幌アートをブランド化することもアートが身近にあることを実感できるようになるために有効かもしれないが、これもあくまで方法論の一つに過ぎない。

「クリエイティビティ」については決して難しく考える必要はない。市民憲章にある「北国の暮らしにあった、衣・食・住のくふうをしよう」の「くふう」なのだと考えれば、多少なりともハードルが低くなるだろう。

したがって、今回の課題に対する結論としては、「創造都市さっぽろの実質化」という理念に向け、まずは「芸術」や「創造性」に対するバリアーを可能な限り取り除く方策を考えつつ、そして私たちの札幌市民の経済活動や文化活動を活性化させ、日常性を豊かにし、現在私たちの抱えている諸問題への解決の道筋をつけるという「創造都市さっぽろ」の目的実現のために、アートセンター内でアートコンシエルジュ的なものをどのように機能させるか、ということなのではないかと考える。

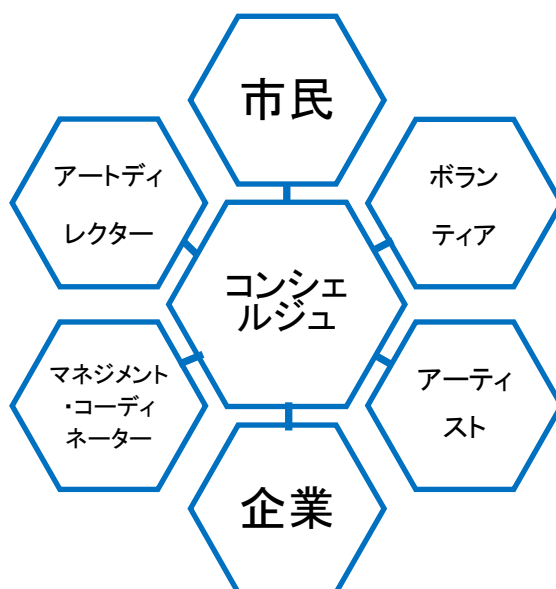
テーマ確定のための検討事項・論点

【南副委員長】

論点1 「アートコンシェルジュ（以下「コンシェルジュ」という。）」とは、どのようなもので、どのような役割・機能を担うと考えていますか。各委員がイメージする「コンシェルジュ」の定義についてご記入ください。

アートコンシェルジュ＝「街のアートなんでも屋隊」＝コンシェルジュ・ネットワーク
「固定的な組織団体」というより柔軟なネットワーク・システム
アートコンシェルジュ自体は金銭的財力を持たないが、行政を含め金銭的財力を持つ団体に対して、組織として提案力を持っている。

論点2 前回議論となった「コンシェルジュ」に関する下記イメージ図（案）について、各委員の考えをご記入ください。（イメージ図そのものを修正する場合は赤字で修正してください。）



縦割り組織の中に、横の連携を作るネットワーク機能持つこと。図に市役所など行政組織や学校なども加えたい。

アートディレクターは基本的には「アートセンター」や「美術館キュレーター」「コンサートホールディレクター」であり、マネジメントは「アート系の会社」や「マスコミ」などと考えると、保育施設・病院・学校・大学・区役所・児童会館・保健所・図書館・などを巻き込む部分が欠落している。行政が縦割りなのは合理的機能上やむえない部分は多々ある。そのため「創造都市」への一体化のために横編みのネットを作りたい。これは、アートセンターを縦割り行政の一部から救済して、「創造都市さっぽろの実質」への布石でもあると考える。

※ 記載欄が不足する場合は、適宜記載欄を調整していただいて構いません。

テーマ確定のための検討事項・論点

【南副委員長】

論点3 前回議論となった「面白さ第一主義」や「アートセンターの役割」、「人材育成」、「市民参加」、「情報共有・発信」、「創造都市さっぽろの実質化」などのキーワードと「コンシェルジュ」は、どのように関わりを持ち、または、どのキーワードとの関連を重視していくべきでしょうか。各委員の考えをご記入ください。

「面白さ第一主義」という言葉は「グレーなイメージではない」ということになるのではないかと。結局「市民参加型のアート戦略」を「市」が持つということが「面白さ第一主義」なのでは。具体的には、「市」が持つのは「情報の整理機能」で、それらは「市民参加型」で形成され、「アートセンター」で管理されることになる。

しかし、これは「コンシェルジュ」の本体ではない。「グレー」ではない、ということは、相手の顔が見えるレベルだということで、フェイス トウ フェイスの個別的組み立ての必要を意味する。これらの実質的結びつきを行うために「コンシェルジュ・ネットワーク」の存在理由が出てくる。

「創造都市さっぽろの実質化」はもう少し違う議論が必要で、「さっぽろ」のアートとしてのブランド化が目標となる。少なくともアートが「観光資源」にまで昇格しないと還元する「実質化」はないと思っている。アーティストが住める街だということ。

論点4 その他、各委員がこれまでの議論を踏まえて思うことや具体的な事業提案をどう「コンシェルジュ」につなげていくかという点、さらに「コンシェルジュ」の問題点や可能性、克服すべき課題に関する意見など、各委員の考えを自由にご記入ください。

これらの問題の発端は、アートセンターが専門的活動を市の中で行えば、役割分担の明確化が逆に縦割り形態が強化されてしまう現実が、やがて硬直化を招き「創造都市さっぽろ」の目標を遠ざけてしまい、市民目線から「グレー・ゾーン」を拡大化させてしまうことへの危惧があったように思います。

したがって、個人的には「コンシェルジュ」という特殊な人材の育成といった問題ではなく、現在ある、あるいはこれから形成する組織にかぶせる「コンシェルジュ・ネットワーク」であり、これは、市行政の各部署から市民団体、個人のグループ、アートセンター、美術館・コンサートホール、病院・学校、地元産業、アートマネージャー・アーティストなどなどを横断した柔軟性のあるネット・システムをイメージしています。

有効に機能するためには、このネットワークに発言力、提言・提案力が必要で、行政組織的には市長や副市長などのトップから、直接横に出ている「諮問・附属機関」レベルでなければ意味がないでしょう。そういう意味では多層構造を持った組織になるのかもしれませんが。

ただ、今回の円卓会議がこの方向に詰めるべきか否かは委員長の考えに沿いたいと思います。

※ 記載欄が不足する場合は、適宜記載欄を調整していただいて構いません。

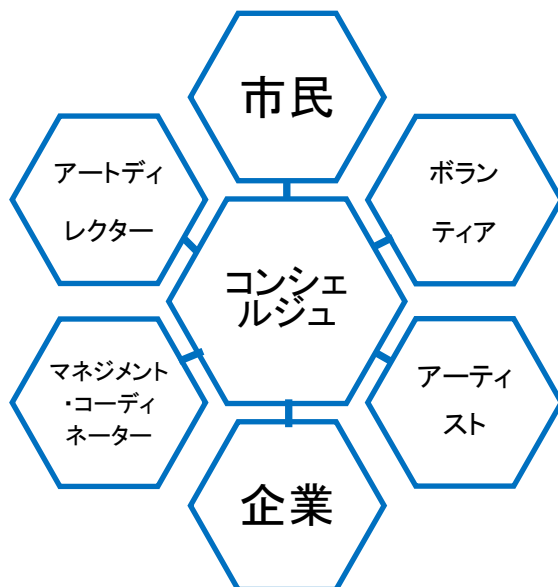
テーマ確定のための検討事項・論点

【石川委員】

論点1 「アートコンシェルジュ（以下「コンシェルジュ」という。）」とは、どのようなもので、どのような役割・機能を担うと考えていますか。各委員がイメージする「コンシェルジュ」の定義についてご記入ください。

「アートコンシェルジュ」は札幌の文化芸術について、市のウェブサイト及び SNS（Facebook, Twitter）等も利用して気軽にアクセスできる親しみ（ユーモア）のある能動的な窓口であるべきだと思います。具体的にはコンシェルジュのキャラクターを設定するのもいいかと思えます。相談を受けるだけではなく、札幌の文化芸術の情報トピックをわかりやすく発信する存在でもあってほしい。コンシェルジュはアートに詳しい専門職ではなく一般行政職員でもよい。コンシェルジュは自身の専門的知見で回答するというより、既存の市や民間の芸術組織と密接に連携し、札幌の文化芸術施設の情報提供や学芸員等の意見をコンシェルジュとして市民にわかりやすく回答できる存在であればいいかと思えます。

論点2 前回議論となった「コンシェルジュ」に関する下記イメージ図（案）について、各委員の考えをご記入ください。（イメージ図そのものを修正する場合は赤字で修正してください。）



この図で良いと考えます。

※ 記載欄が不足する場合は、適宜記載欄を調整していただいて構いません。

テーマ確定のための検討事項・論点

【石川委員】

論点3 前回議論となった「面白さ第一主義」や「アートセンターの役割」、「人材育成」、「市民参加」、「情報共有・発信」、「創造都市さっぽろの実質化」などのキーワードと「コンシェルジュ」は、どのように関わりを持ち、または、どのキーワードとの関連を重視していくべきでしょうか。各委員の考えをご記入ください。

「論点1」にも触れたが、コンシェルジュが市民に相談しやすい存在になるためには、親しみやすい「ユーモア」が必要かと思う。その部分は「面白さ第一主義」に関連する。コンシェルジュを設置しても相談者がいないと意味がないので、一番にこの関係を重視したい。コンシェルジュを「面白く」演出し、市民に広く利用されることを目標にしたい。

論点4 その他、各委員がこれまでの議論を踏まえて思うことや具体的な事業提案をどう「コンシェルジュ」につなげていくかという点、さらに「コンシェルジュ」の問題点や可能性、克服すべき課題に関する意見など、各委員の考えを自由にご記入ください。

私は現段階でコンシェルジュのために専門家を雇用する必要はないと思っています。コンシェルジュは市民から相談を受けた時は、文化芸術に関する市や民間組織の情報や意見を反映して回答できる立場でいいかと思います。私は札幌に既にコンシェルジュに必要な施設や人材は存在しており、それとの通年の連携システムをつくるのが課題かと思います。まずはコンシェルジュの体制をつくるための公的な文化芸術施設との連携。そして、ボランティアを含む民間の文化芸術組織との連携を構築するのが大事かと思います。コンシェルジュは単なる相談窓口ではなく、札幌の文化芸術の盛り上げ、創造都市や札幌国際芸術祭の広報も兼ねた市民との重要な接点として、運営されていくべきだと考えます。

※ 記載欄が不足する場合は、適宜記載欄を調整していただいて構いません。

テーマ確定のための検討事項・論点

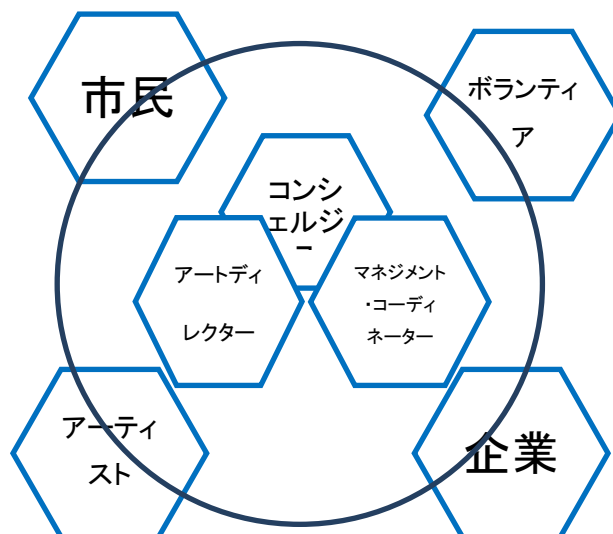
【尾崎委員】

論点1 「アートコンシェルジュ（以下「コンシェルジュ」という。）」とは、どのようなもので、どのような役割・機能を担うと考えていますか。各委員がイメージする「コンシェルジュ」の定義についてご記入ください。

コンシェルジュの機能としては、市民・ボランティアをいかにアート情報に誘導するか、という事なのかな?と考えます。

そのための情報の蓄積・活用が求められ、コンシェルジュとして市民に接するという事は、情報の活用なのではないかと考えます。

論点2 前回議論となった「コンシェルジュ」に関する下記イメージ図（案）について、各委員の考えをご記入ください。（イメージ図そのものを修正する場合は赤字で修正してください。）



うまく図に出来ませんが、コンシェルジュにすべてのハブ機能を求めるのもいびつになるように思います。

今現在札幌にはコンシェルジュは存在していませんし、その定義も曖昧ですが、同様にアートディレクターやコーディネーターといった方もほぼ存在していない状態と思います。

まずは、市民を巻き込む必要があるし、そこへのアプローチが無いように見えるためコンシェルジュが求められているように思います。

※ 記載欄が不足する場合は、適宜記載欄を調整していただいて構いません。

テーマ確定のための検討事項・論点

【尾崎委員】

論点3 前回議論となった「面白さ第一主義」や「アートセンターの役割」、「人材育成」、「市民参加」、「情報共有・発信」、「創造都市さっぽろの実質化」などのキーワードと「コンシェルジュ」は、どのように関わりを持ち、または、どのキーワードとの関連を重視していくべきでしょうか。各委員の考えをご記入ください。

「面白さ第一主義」は入り口としてはとても大切な事に思います。ですが、それのみに進む危険性も併せて考えなければ、行けないように思います。

これは個人的な思いですが、「多様性」が謳われる現代、メディアに乗る物はすべて（は言い過ぎかもしれませんが）多様性が失われたものばかりと思っています。

そういったものに疑問を感じ、「芸術・文化」の多様性が心地よく思う自分としては、「面白い」は入り口として広くあるべきものかと思いますが、その先にももっと「面白い」ものがあると思います（ここで言う面白いも色々考えがあるかとは思いますが）。

コンシェルジュの進む道としては、いかに入り口に招き、さらにその先の深い所へ誘うか、ということではないでしょうか。（抽象的な表現しかできずすいません）

アートセンターの役割について一つ危険だと思っている事は、アートセンターが文化交流複合施設内に留まり、施設内の活用・事業をメインに推進し、私たちが思う「アートセンター」になりきれない事です。

コンシェルジュをアートセンター内に設置し、コンシェルジュと共に札幌の文化・芸術の核になる事を願ってます。

論点4 その他、各委員がこれまでの議論を踏まえて思うことや具体的な事業提案をどう「コンシェルジュ」につなげていくかという点、さらに「コンシェルジュ」の問題点や可能性、克服すべき課題に関する意見など、各委員の考えを自由にご記入ください。

自由に書きます。各都市にアートステーションが設置され、そこにはアートコンシェルジュという国家資格（学芸員のように）を持った人が常駐し、そこに各都市の文化・芸術に関する資料や情報が蓄積され、市民や旅行などで訪れる方へインフォメーションされていくようになると素敵ですね。札幌が先行導入し、モデル都市として日本全国の文化芸術行政に携わる方が視察に来札。そこでまたコンシェルジュが活躍する。素晴らしい。全然具体的ではないですね・・・

コンシェルジュを含めた私が思う課題は、論点2ででた図をいかに具体的に図へと近づけるかだと思います。前にも書いていますが、今現在はコンシェルジュだけではなく、ディレクターもコーディネーターも機能していない状況のように思います。当然そんな状態ですので、企業もイベントには協力しても、芸術・文化へ恒常的にサポートする必要は見いだせていないと思いますし、アーティストもまた本来の力を発揮できてるのかも疑問です。

もう一つ、コンシェルジュが蓄えた情報を活用し、（諸外国の事例なども）教育への活用方法を見いだせて行けばよいと考えます。

※ 記載欄が不足する場合は、適宜記載欄を調整していただいて構いません。

テーマ確定のための検討事項・論点

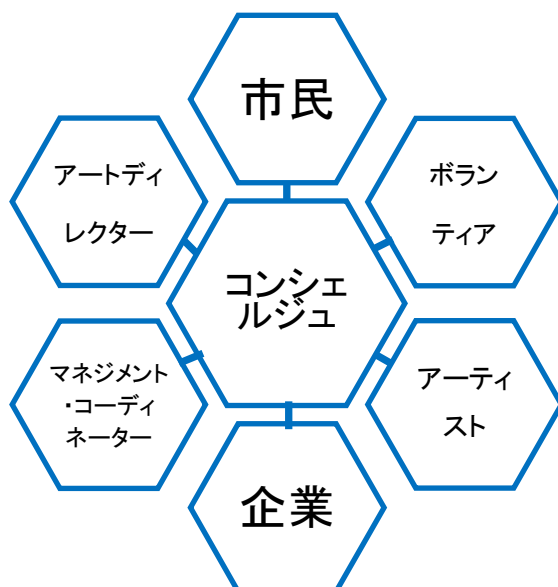
【清水委員】

論点1 「アートコンシェルジュ（以下「コンシェルジュ」という。）」とは、どのようなもので、どのような役割・機能を担うと考えていますか。各委員がイメージする「コンシェルジュ」の定義についてご記入ください。

芸術文化を担う個々のユニット同士の連携不足が札幌市の芸術文化振興の克服すべき課題だという認識なので、コンシェルジュの存在・機能はその進展策の要になると思われる。

しかし既存の「アートコンシェルジュ」という言葉の差すものは、ヨーロッパの貴族などともとも知識を備えた富裕層が担い手であるように思う。それを日本や、富裕層の少ない札幌でそのまま通用するとは考え難い。（富裕層で文化支援というとライオンズクラブくらい？）日本版あるいは札幌版の「アートコンシェルジュ」の定義を明確にすることが先決である。現状では高い専門性や知識よりも御用聞き的面が大きいのではないか。それでよいとは思わないので、コンシェルジュの重要性を広報して予算等つけていくことが必要。例えばビッグネームを迎え入れることは創造都市としての対外アピールにもなると思う。

論点2 前回議論となった「コンシェルジュ」に関する下記イメージ図（案）について、各委員の考えをご記入ください。（イメージ図そのものを修正する場合は赤字で修正してください。）



ユニットとしてはこの図のイメージでよい。さらにこのユニットが、コンシェルジュを軸としてうまく作用することにより、どう効果をあげていくのか、発展型の動きのある図が描けると良いと思う。

車輪と車軸のイメージだったので回転やスパイラルを考えたがうまくまとめられなかった。外部環境要素なども図に入れて作用の矢印を入れるなど、効果があるという予想図を描きアピールしたい。

※ 記載欄が不足する場合は、適宜記載欄を調整していただいて構いません。

テーマ確定のための検討事項・論点

【清水委員】

論点3 前回議論となった「面白さ第一主義」や「アートセンターの役割」、「人材育成」、「市民参加」、「情報共有・発信」、「創造都市さっぽろの実質化」などのキーワードと「コンシェルジュ」は、どのように関わりを持ち、または、どのキーワードとの関連を重視していくべきでしょうか。各委員の考えをご記入ください。

旅先で色々なアクティビティの水先案内をしてくれるホテルのコンシェルジュのイメージで、「面白さ第一主義」との相性はいいように思う。

前述のとおり、アートコンシェルジュという個人的な人材を札幌で見つける、または誘致するのは難しいので、組織として専門性や知識をお互い補って成立するコンシェルジュ像を想像している。アートセンターのプレーンとしてコンシェルジュは活躍すべき。コンシェルジュが指示・支援して市民参加や情報発信などを各ユニットに任せるとよい。

コンシェルジュの存在自体が創造都市の実質化を具現する。コンシェルジュが大したことなければ、実質化が甘いと見られてしまうように感じる。

論点4 その他、各委員がこれまでの議論を踏まえて思うことや具体的な事業提案をどう「コンシェルジュ」につなげていくかという点、さらに「コンシェルジュ」の問題点や可能性、克服すべき課題に関する意見など、各委員の考えを自由にご記入ください。

前述のとおり、既存の言葉の指す「アートコンシェルジュ」は札幌での実現は難しい。実現可能な存在としてのコンシェルジュの定義を明確にすること。実現可能＝機能低下で実質無意味なコンシェルジュになっては元も子もないので、少し高め理想のコンシェルジュ像を練り上げる必要がある。

理想的なアートコンシェルジュを置くことができなくても、コンシェルジュの機能とその必要性が明確になれば、各ユニットがその機能を補完し合うことにつながると期待できる。

札幌市の芸術文化振興策において何が足りないのか、どうしたらよいかということを、コンシェルジュという架空の存在を議論することで明確にし、それを知らしめて既存のユニットの活動促進につなげられるといい。

芸術文化には基準がなく貴賤も優越もつけがたい。そうした中で方向性を決めるためには、たとえ専門性が十分でなくても、進展のためにコンシェルジュという存在を作り、独断と偏見でもかまわず決定権を与えてしまうのも手かもしれない。

※ 記載欄が不足する場合は、適宜記載欄を調整していただいて構いません。

テーマ確定のための検討事項・論点

【鈴木委員】

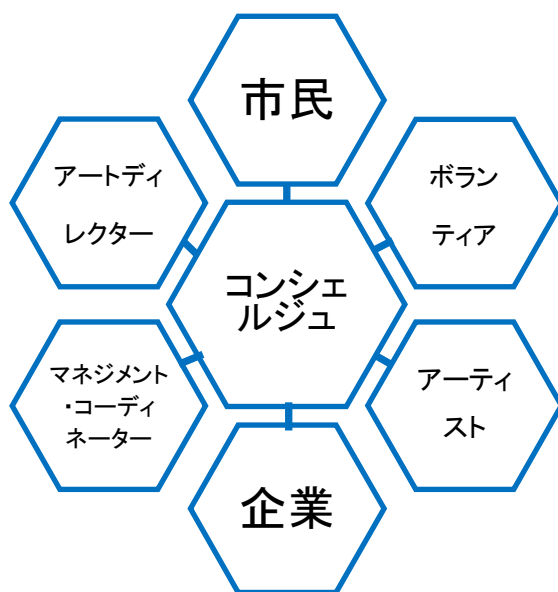
論点1 「アートコンシェルジュ（以下「コンシェルジュ」という。）」とは、どのようなもので、どのような役割・機能を担うと考えていますか。各委員がイメージする「コンシェルジュ」の定義についてご記入ください。

コンシェルジュとは、例えて言うなら「素材を調理するコック」のようなもの。

見る側・聴く側の市民からの相談の場合は、それぞれの好みに合わせたイベント等を紹介し、やる側からの相談なら会場や出やすいイベントなどを紹介する。

それぞれ相談する側の人間の思っていること（素材）を拾い上げ、その思っていることをうまく拾い上げて紹介（料理）していくのがコンシェルジュだと考えます。

論点2 前回議論となった「コンシェルジュ」に関する下記イメージ図（案）について、各委員の考えをご記入ください。（イメージ図そのものを修正する場合は赤字で修正してください。）



この図で見ると中心にくるコンシェルジュに対して負担がかかりすぎのようになってしまう。各分野につき、コンシェルジュとして動ける人間を数名つけるのならやりやすいように思う。

つまり、例えば、各部門担当札幌コンシェルジュ（市民、ボランティア、アーティスト、企業、マネジメント・コーディネーター、アートディレクター）の上に音楽担当代表コンシェルジュ、美術担当代表コンシェルジュ、舞台担当代表コンシェルジュ、そして札幌代表コンシェルジュ（市とコンシェルジュとのパイプ役等を担い、市職員との連携を高める役割など）を設置するなどコンシェルジュの組織図を明確にした方が、イメージは付きやすい。

おおまかな図は上記の図で良いように思う。

※ 記載欄が不足する場合は、適宜記載欄を調整していただいて構いません。

テーマ確定のための検討事項・論点

【鈴木委員】

論点3 前回議論となった「面白さ第一主義」や「アートセンターの役割」、「人材育成」、「市民参加」、「情報共有・発信」、「創造都市さっぽろの実質化」などのキーワードと「コンシェルジュ」は、どのように関わりを持ち、または、どのキーワードとの関連を重視していくべきでしょうか。各委員の考えをご記入ください。

まずは「創造都市さっぽろの実質化」の具体的なことについて議論をしていくのがよいと考える。そして、市民にイメージをしっかりと理解・共有できた所で、他のワードについて動き出すのが一番良いように思う。というより、創造都市さっぽろの実質化を行う上で、「面白さ第一主義」というワードを市民に提示して動き出しても良いだろうし、それに付随して情報共有・発信も同時に行われるものと考えている。

コンシェルジュについても、まずは市民が芸術分野に関心を以前より持つようになり、コンシェルジュが必要だと思える所まで市民に創造都市を認知させる必要がある。認知度が低いままコンシェルジュの仕組みを考え、行動に移すことも可能ではあるが、認知していない市民からすると「またよくわからないことをやっているようだね」という印象にしかならず、うまく広く市民に活用されないような気がする。

論点4 その他、各委員がこれまでの議論を踏まえて思うことや具体的な事業提案をどう「コンシェルジュ」につなげていくかという点、さらに「コンシェルジュ」の問題点や可能性、克服すべき課題に関する意見など、各委員の考えを自由にご記入ください。

コンシェルジュの仕組みが出来るのは賛成であり、私もあれば是非活用したい。可能性としては前回の会議で出ていたように、今まで誰に相談すればよかったのかわからなかった内容も聞く場所ができるので良い仕組みだと思いますし、コンシェルジュのイメージ図のようにそれぞれのパイプ役として位置することになれば、いままでパイプがうまくいかなかった部分同士の仲介役としてコンシェルジュがいることとなり以前まで取り組めなかった内容も実現が可能になると思う。

もう少し具体的に言うと、以前私が具体的な事業案で「オールナイトアートイベント」を出した。もしこれを本当に企画するとした場合、今はしたいけど動けない。どのような手続きが必要で、どのような知識や段取りが必要なかわからない。そんな時にコンシェルジュがイベント企画に詳しいマネジメントを行える人を紹介したり、市と連絡を取り、手続きの手順について教える仲介役を担ったりする。そうすると今まで動かたくても動けなかった市民が、創造都市で創造できる市民になれる。つまり、コンシェルジュが出来ることによって、より多くの市民に自分自身で創造できるチャンスが増えていくものだと考えている。

※ 記載欄が不足する場合は、適宜記載欄を調整していただいて構いません。

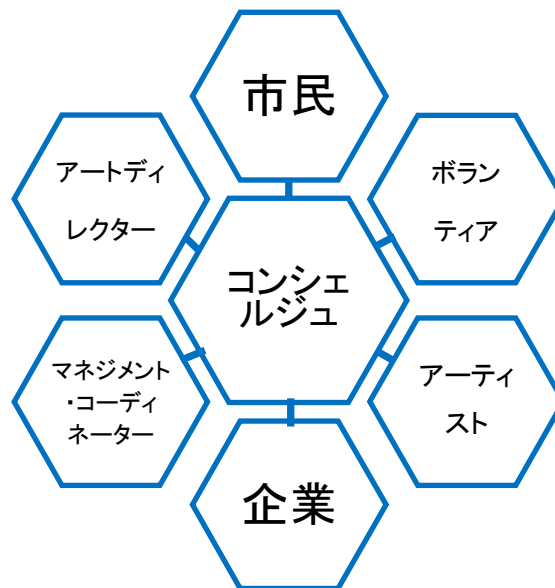
テーマ確定のための検討事項・論点

【富田委員】

論点1 「アートコンシェルジュ（以下「コンシェルジュ」という。）」とは、どのようなもので、どのような役割・機能を担うと考えていますか。各委員がイメージする「コンシェルジュ」の定義についてご記入ください。

高度なアートへの批評性や、専門的知識ではなく、一札幌市民の立場、目線から、積極的に自身も札幌を楽しみ、網羅的に情報をキャッチし、紹介、案内する役割を担う文化芸術の「つなぎ役」である。

論点2 前回議論となった「コンシェルジュ」に関する下記イメージ図（案）について、各委員の考えをご記入ください。（イメージ図そのものを修正する場合は赤字で修正してください。）



市民や企業といったものとある種の具体的な役割とを、同列に語れるのかは議論が必要な気がします。整理の仕方としてはよいと思います。

※ 記載欄が不足する場合は、適宜記載欄を調整していただいて構いません。

テーマ確定のための検討事項・論点

【富田委員】

論点3 前回議論となった「面白さ第一主義」や「アートセンターの役割」、「人材育成」、「市民参加」、「情報共有・発信」、「創造都市さっぽろの実質化」などのキーワードと「コンシェルジュ」は、どのように関わりを持ち、または、どのキーワードとの関連を重視していくべきでしょうか。各委員の考えをご記入ください。

「アートセンターの役割」、「人材育成」、「市民参加」、「情報共有・発信」、「創造都市さっぽろの実質化」などは、水面下で行われる息の長い「やらなければいけないこと」であり、パブリックとしての使命や責任などを想起する視点に対して、面白さ第一主義は、自分たちがまず身をもって体験し、楽しむという原点を見せてくれた良い視点だと思います。

自信を持って自分たちの住む札幌が面白い街だと言えること。自分たちごととして芸術文化の重要性や価値を考える人が増えること。コンシェルジュは率先して実践的に活動していくある種のモデルになることが重要であるという意味で、常にこの市民目線とも言える「面白さ第一主義が」芸術文化のポータルを担うアートセンターのキーワードになっていく気がします。

論点4 その他、各委員がこれまでの議論を踏まえて思うことや具体的な事業提案をどう「コンシェルジュ」につなげていくかという点、さらに「コンシェルジュ」の問題点や可能性、克服すべき課題に関する意見など、各委員の考えを自由にご記入ください。

まずは実際の活動現場を通して学ぶ必要があります。ですから、現に今行われている札幌国芸術祭では、ボランティアの中で SNS などを使って、自発的にコンシェルジュ機能を担う人もできています。また、市民レベルでの情報共有の場所として、ボランティアの自主的なトークの場や飲み会等が企画されています。そこにはアートセンターにつながる重要なヒントが隠されています。

ですから、全てをマネジメントやコーディネーターがハンドリングするのではなく、あくまで自発性に任せ、自由に意見が出る場所が必要です。どうしてもパブリックができないこと、行政が企画したり、責任を負う以外の部分。そのようなオフィシャル以外の市井の活動にアンテナをはって、それをいかに把握し意見や、情報を集め、ゆるやかに連携できるかが大きな課題と言えます。

※ 記載欄が不足する場合は、適宜記載欄を調整していただいて構いません。

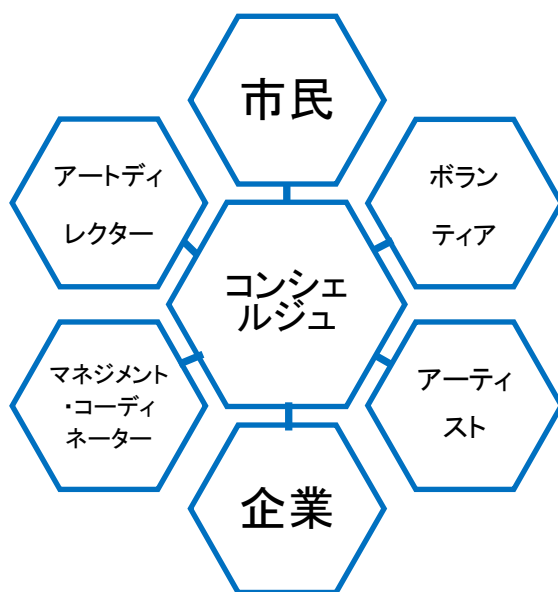
テーマ確定のための検討事項・論点

【山田委員】

論点1 「アートコンシェルジュ（以下「コンシェルジュ」という。）」とは、どのようなもので、どのような役割・機能を担うと考えていますか。各委員がイメージする「コンシェルジュ」の定義についてご記入ください。

美術館、ギャラリーや芸術・文化関連施設でのアート情報（会期、行事名、出展作家、内容、アクセスなど）について情報を集め、提供発信することができ、また、わからないことや知りたいことを誰に相談したらよいかという質問に対し、相談にのったり、アドバイスする役割だと思います。

論点2 前回議論となった「コンシェルジュ」に関する下記イメージ図（案）について、各委員の考えをご記入ください。（イメージ図そのものを修正する場合は赤字で修正してください。）



「コンシェルジュ」は、さまざまなコンテンツをつなぐ役割を担うことになると思いますので、この図でよいと思います。

ただし、中心となる「コンシェルジュ」と各コンテンツを結ぶ線が実線ではなく、結びつきの度合いによって、点線で表現するケースもあると思います。

※ 記載欄が不足する場合は、適宜記載欄を調整していただいて構いません。

テーマ確定のための検討事項・論点

【山田委員】

論点3 前回議論となった「面白さ第一主義」や「アートセンターの役割」、「人材育成」、「市民参加」、「情報共有・発信」、「創造都市さっぽろの実質化」などのキーワードと「コンシェルジュ」は、どのように関わりを持ち、または、どのキーワードとの関連を重視していくべきでしょうか。各委員の考えをご記入ください。

(アート)「コンシェルジュ」から「面白さ第一主義」へは、まさに面白いつながりがダイレクトに見えそうで、イメージしやすい気がします。そして、このふたつを結ぶ線の途中に「情報共有・発信」があり、それらを包むものとして、「創造都市さっぽろの実質化」や「アートセンターの役割」とのかかわりが生じてくるものと考えられます。

モノゴトの組み立てをしたり、迷えるヒトの背中を押す役目が「コンシェルジュ」で、目指すところが、「面白さ第一主義」だと思います。

論点4 その他、各委員がこれまでの議論を踏まえて思うことや具体的な事業提案をどう「コンシェルジュ」につなげていくかという点、さらに「コンシェルジュ」の問題点や可能性、克服すべき課題に関する意見など、各委員の考えを自由にご記入ください。

「コンシェルジュ」としての役割を担う人材は、どんな知識・経験が必要か、もらうか、人選が難しいかもしれませんがきっと、たくさんいるような気がします。

得意分野ごとのコンシェルジュがいたり、そのコンシェルジュ・ネットワークをつくり、その結びつきから、さまざまな課題解決を目指すというのも大事だと思います。

※ 記載欄が不足する場合は、適宜記載欄を調整していただいて構いません。

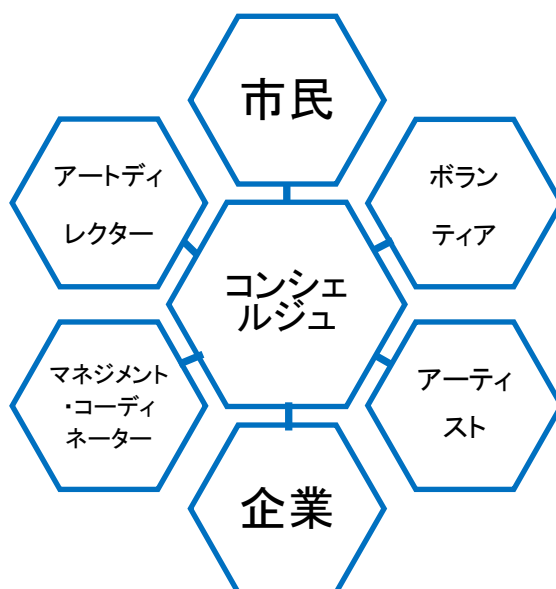
テーマ確定のための検討事項・論点

【尹委員】

論点1 「アートコンシェルジュ（以下「コンシェルジュ」という。）」とは、どのようなもので、どのような役割・機能を担うと考えていますか。各委員がイメージする「コンシェルジュ」の定義についてご記入ください。

アートコンシェルジュ、イメージとしては北村委員長も横文字は・・・とおっしゃっていましたが、先ずは市民にはぴんと来ない気がするのが正直な所です。ただ、名称はさておき役割として考えたときには、確かに<どうすればいいのか？どこに聞けばいいのか？どうやって相談しよう等>の課題が出たときに、総合的にまず一旦事案を引き受けてくれる窓口があるとなると、とても心強い部分ではあると思うし、そういった部分を担うべきポジションがコンシェルジュではないかと思います。その上で、コーディネーターや具体的な分野の方へ繋げてもらい発展性を持たせられたらいいなと思います。

論点2 前回議論となった「コンシェルジュ」に関する下記イメージ図（案）について、各委員の考えをご記入ください。（イメージ図そのものを修正する場合は赤字で修正してください。）



この図に関しては、これでいい気もしますし、何かが足りない気もしますし・・・全体をつなげる役割をコンシェルジュが担う事がいいと思いますが・・・もう少し考えていきたいと思いますので、いったん保留でお願い致します。

※ 記載欄が不足する場合は、適宜記載欄を調整していただいて構いません。

テーマ確定のための検討事項・論点

【尹委員】

論点3 前回議論となった「面白さ第一主義」や「アートセンターの役割」、「人材育成」、「市民参加」、「情報共有・発信」、「創造都市さっぽろの実質化」などのキーワードと「コンシェルジュ」は、どのように関わりを持ち、または、どのキーワードとの関連を重視していくべきでしょうか。各委員の考えをご記入ください。

私は＜面白さ第一主義＞はとてもいいテーマだと思いますが、これに関してはコンシェルジュとは全く別の所で考える方がいい気がします。どちらかというと、コンシェルジュは受け身の存在であり、面白さ第一主義を実現しようと思うなら、どんどん楽しい事をこちらから仕掛けていく仕掛け人が必要になってくる気がします。勿論情報の共有は必須ですし、相談者発信の事案を繋げていくことが大切だと思うので、コンシェルジュとしては理想的に言えば、仕掛け人の役割も担っていく存在だとおおいかなと。ただ、能力的にも役割的にもそこまで広く色々なことを出来る人というのは中々いないと思うので、分野ごとに一つのチームを作って対応するとか何か方法的にもっと模索する必要があると思います。対市民やプレーヤーにとってはコンシェルジュの存在はとても大事な存在になると思いますが、創造都市さっぽろの実質化まで行こうと思うと、もう少し細かく役割分担を決めた方がいいと思います。(例えば情報発信は広報的ポジションの人が必要だと思う・・・)

論点4 その他、各委員がこれまでの議論を踏まえて思うことや具体的な事業提案をどう「コンシェルジュ」につなげていくかという点、さらに「コンシェルジュ」の問題点や可能性、克服すべき課題に関する意見など、各委員の考えを自由にご記入ください。

文化芸術といっても分野が広く、専門分野以外になると中々わからない事が多いのが事実。そんな中で総合的なコンシェルジュを置こうと思うと、能力的にかなう人材を探し出すことは容易でないと思いますし、育成していく上でもどこに重点を置くのか、迷うところではあると思います。まずは大きく分野を分け育成し(例えば音楽・舞踊・美術(アート)・演劇とかいくつかカテゴリー分けする)、横のつながりを持たせながらコントロール出来るコントローラーの育成も必要ではないかと。ただ、その部分を官主導でしていくのが理想的かなとも思います。アートセンター作りは決定していると思うので、ソフトの部分で早急に対策をたて、先ずは興味がある人やその分野で活躍されている方に声をかけていき、本格的に手探りでも育成する必要があると思います。この円卓会議員も市の推薦の方以外は、自分自身で情報を掘み応募してきたと思うので、興味のある人は常にアンテナを立て情報収集していると思います。今私たちがしようとしていることは、少しでも多くの市民の方に、文化芸術に関心を持ち、生活の中に溶け込ませて行くにはどうすれば良いかという事だと思うので、そういった人材を先ずは取りこぼさないよう＜集まれる場＞を作っていく必要があると思いますし、そういう人達を増やしていくための面白い仕掛けを沢山して行く事が重要ではないかと思っています。

※ 記載欄が不足する場合は、適宜記載欄を調整していただいて構いません。